



あぐり情報
Aguri Information

営農生活課
森永 諭

果樹類の
冬季病害虫防

11月初旬は20度を超える暖かい日が続いたかと思えば、11月中旬から気温が下がり、一気に冬が近づきました。

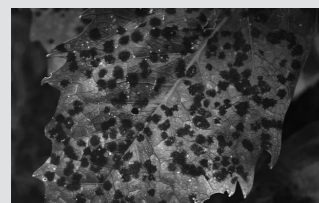
10月24日に気象庁から発表された11月～1月の3か月予報では、今年の冬はエルニーニョ現象の影響で東日本は暖冬傾向の見込みとなっており、太平洋側では、例年より降雨の可能性も高いとのこと。

冬に入り、徐々に害虫の発生は減る時期ではありますが、降雨が多いと病害の発生のおそれがあります。今回は、冬時期によくお問い合わせのある、果樹類の病害虫についてご紹介します。

○果樹類の病害虫

かんきつ類をはじめ、果樹類でカイガラムシに悩む方は多いのではないのでしょうか。カイガラムシは「すす病」を媒介する害虫です。

カイガラムシ以外にも冬季防除が効果的な病害虫は、ハダニ類・サビダニ類・黒星病にります。これらの病害虫には次の農薬が効果的です。



防除は1回のみではなく、12月から2月頃（芽が動き始める前まで）にかけて1か月に1回程度行うようにしましょう。

・石灰硫黄合剤

18ℓ 3,234円

・機械油乳剤

500ml 715円
18ℓ 9,328円



機械油乳剤 適用表

作物名	適用害虫	希釈倍数(倍)	使用時期	総使用回数*	
				本剤	マシン油
かんきつ	ヤノネカイガラムシ その他のカイガラムシ サビダニ ハダニ類の越冬卵	30~45	冬季		
	ヤノネカイガラムシ その他のカイガラムシ サビダニ、ハダニ類	100~200	夏季		
落葉果樹 (なしりんご かき、もも)	カイガラムシ サビダニ ハダニ類及び その越冬卵	16~24	—	—	—
落葉果樹 桑	カイガラムシ類	12~14			
りんご (北部日本 芽生前に 散布の場合)		30~45			
もも	アブラムシ類	25	発芽前		

*印は、本剤及びその有効成分を含む農薬の総使用回数の制限を示す。

石灰硫黄合剤 適用表

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	石灰硫黄合剤を含む農薬の総使用回数
果樹類	ハダニ類・サビダニ類	80~200倍 20~40倍	夏季 冬季			
落葉果樹	カイガラムシ類・縮葉病	7~10倍	発芽前			
	ハダニ類・越冬病害虫	7~40倍				
りんご	腐らん病	10倍	休眠期			
	うどんこ病・モニリア病	40~140倍	—			
なし	黒星病	7倍	発芽前			
もも						
うめ	縮葉病	8倍				
すもも・あんず	ふくろみ病	140倍	—			
すぐり	うどんこ病	80~140倍				
くり	芽枯病	20~40倍	発芽前			
かき	黒星病・うどんこ病	100倍	—			
みかん	ハダニ類・そうか病	80~200倍	夏季			
	黒点病・かいよう病	20~40倍	冬季			
	ヤノネカイガラムシ	60~80倍	—			
たらのき	胴枯病	7倍	発芽前			
麦類	赤かび病	50~60倍	—			
	さび病・うどんこ病	40~140倍				
茶	ハダニ類・サビダニ類	80~200倍	夏季			
	ハダニ類	20~200倍	冬季			
	サビダニ類	20~40倍				
ひやくしん	赤星病	40倍	—			
まつ	ハダニ類	20倍	新梢発生前			
桑	カイガラムシ	7~10倍	—			
	胴枯病	7倍	発芽前			

作物名	使用目的	希釈倍数	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	石灰硫黄合剤を含む農薬の総使用回数
りんご	摘花	100~120倍	満開後	2回	立木全面散布	—

○農薬の紹介
ピシロックフロアブル



ほうれん草やネギ、カブ・大根・はくさい・キャベツ・レタス・はなやさい類(ブロッコリー等)・なす・トマトといった野菜に登録があり、べと病、疫病、ピシウム病等の病害に対して効果があります。予防効果が高く、潜伏感染治療効果や浸透性があります。予防がメインではありますが、収穫前日まで散布できるので、ローテーションの一つにいかがでしょうか。

※農薬使用上の注意

農薬を使用する際は容器などに記載されたラベルの内容に従って正しく使用しましょう。農薬システムの使用回数に注意し、ローテーション防除を心がけましょう。